

# だいきく通信 第三十六号「冬の号」

いあつち

平成最後の師走となりました。振り返ってみますと、今年はいくつもの大きな災害をはじめ、日本全体を揺るがす出来事が起きた年でした。

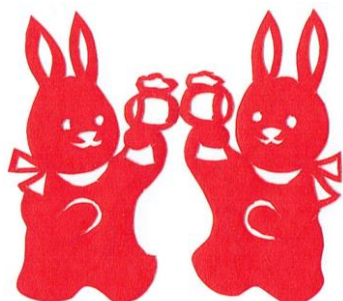
災害にあわれたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。一人ひとりがしっかりとした考えと備えを持ち、落ち着いて日々を暮らすことの大切さを、改めて学んだと感じております。

来年がどうか安らかない年でありますようにお祈りいたします。

社報「だいきく通信」第三十六号をお届けします。

今回の内容は、新年のご祈祷受付時間のご案内、催し物の予告、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生



## 平成三十一年新年のご祈祷受付時間

|         |           |           |
|---------|-----------|-----------|
| 一月一日(火) | 午前零時～二時   | 午前六時～午後五時 |
| 二日(水)   | 午前八時～午後五時 |           |
| 三日(木)   | 午前八時～午後五時 |           |
| 四日(金)   | 午前九時～午後一時 |           |
| 五日(土)   | 午前九時～正午   |           |
| 六日(日)   | 午前九時～午後一時 |           |
| 七日(月)   | 午前九時～正午   |           |

| 平成31年の厄年一覧(数え年) |                      |                          |                        |
|-----------------|----------------------|--------------------------|------------------------|
|                 | 前 厄                  | 本 厄                      | 後 厄                    |
| 男性の厄年           | 24歳<br>平成8年生<br>ねずみ  | 25歳<br>平成7年生<br>い(いのしし)  | 26歳<br>平成6年生<br>いぬ     |
|                 | 41歳<br>昭和54年生<br>ひつじ | 42歳<br>昭和53年生<br>うま      | 43歳<br>昭和52年生<br>み(へび) |
|                 | 60歳<br>昭和35年生<br>ねずみ | 61歳<br>昭和34年生<br>い(いのしし) | 62歳<br>昭和33年生<br>いぬ    |
| 女性の厄年           | 18歳<br>平成14年生<br>うま  | 19歳<br>平成13年生<br>み(へび)   | 20歳<br>平成12年生<br>たつ    |
|                 | 32歳<br>昭和63年生<br>たつ  | 33歳<br>昭和62年生<br>う(うさぎ)  | 34歳<br>昭和61年生<br>とら    |
|                 | 36歳<br>昭和59年生<br>ねずみ | 37歳<br>昭和58年生<br>い(いのしし) | 38歳<br>昭和57年生<br>いぬ    |

※近年は女性61歳の還暦も厄年とする場合もあります。

## 大國神社の今

○第八回だいきく落語会、日程が決定しました。  
毎年春に開催しておりますだいきく落語会の、来年の日程が決まりました。次回も古今亭菊之丞師匠をお迎えしての独演会です。

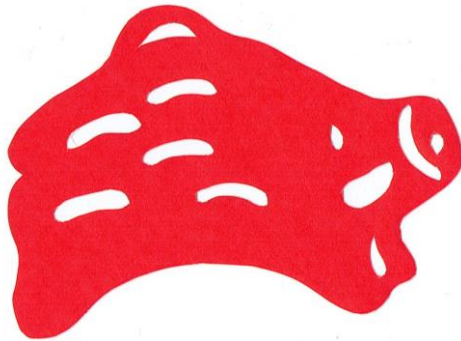
平成三十一年四月二十七日（土）午後五時開演

参加のお申し込みは、来年三月の開運千人講祈禱祭から受け付ける予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

## お宮あれこれ「イノシシのはなし」

来年の干支「亥（イノシシ）」にちなんで、今回はイノシシについてお話ししてみたいと思います。

イノシシは大きな犬歯が特徴で、口の外に突き出して牙となっています。夜行性の動物で、雑食です。植物の根を食べるため、農作物に被害を与えることもよくあります。走るスピードが速いところから「猪突猛進」などの表現が生まれました。日本の山林に広くみられるイノシシはニホンイノシシという種類です。



「イノシシ」という名前は「猪（い）の獣（しし）」という意味です。古代の日本語でイノシシをあらわすことばは「イ」だったそうです。また、「シシ」はけもの、特に猪や鹿を呼ぶことばでした。万葉集に次の歌があります。

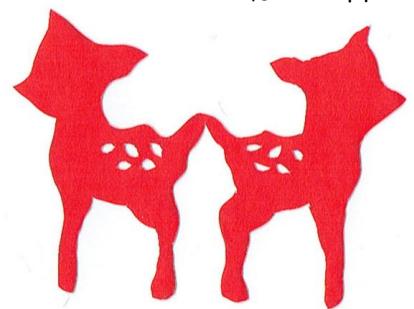
「安太多良（あだたら）の嶺（ね）に  
臥（ふ）す思之（しし）の在りつつも  
吾（あ）れは至らむ寝処（ねど）な去  
りそね（東歌・陸奥）」（巻一四・三四  
二八）

（安達太良の 峰で寝る猪のように こうして絶えず わたしは逢いに来よう 寝床から離れないでおくれ）

この「シシ」という言い方は「ししおどし（鹿威）」などのことばの中に残っています。このように、「イノシシ」はもともと「イ」というけもの」ということをあらわしていました。ちなみに、シカはもともと「カ」と呼ばれており、古い日本語ではシカのことを「カノシシ」と呼んでいたようです。

なお、「シシ」は本来、けものの食用にする肉のことをさすことばでした。「ふとりじし」ということばがありますが、これは肉付きがいいことを言ったものです。

イノシシの肉も食用にされますが、たんぱく質や脂質が豊富で、ビタミンB1も多く含まれているそうです。上方落語には「池田の猪（しし）買い」という演目があります。体の冷えに悩む男がイノシシの肉を買いにいく話です。イノシシの肉のことばを「山鯨」と呼ぶことがあります。動物の肉一般をさして言うこともありますが、獣の肉を食べることが禁じられてい





た時代に、ひそかにイノシシの肉を食べる時の隠語でした。また、イノシシの肉を使った鍋料理を「牡丹鍋」と言います。これは、「獅子に牡丹」という表現がもたなくなっていきます。堂々とした獅子と豪華な牡丹の花を合わせた図柄のことで、取り合わせがよいことについて使います。この「獅子」をイノシシに読み替えて「牡丹鍋」と表現しました。

イノシシの子どもは「瓜坊（うりぼう）」と呼ばれます。これは体の毛にマクワウリの縞に似た模様が浮き出ているためです。おとなになるとこの模様は消えてしまいます。

ついながら、ブタはイノシシを家畜化した動物です。イノシシは一回の出産で3頭から8頭（平均すると約5頭）のこどもを産みます。これでもかなり多いと思われるが、ブタは平均で約10頭を産み、ほぼ倍です。このことからブタは西洋では多産のシンボルとして扱われているようです。

宮崎県西都（さいと）市の銀鏡（しろみ）神社の例大祭では、イノシシの頭が神様に捧げる神饌（しんせん）とされ、山の中から追い出したイノシシを弓で射る場面が神楽「シシトギリ」として演じられます。このほかに、イノシシを神に捧げ



る神事が各地にみられます。こういった儀式は豊饒（ほうじょう）多産を願う気持ちであられたものです。

このようにイノシシはもともと私たちの暮らしに深く関わりのある動物でした。来年は世の中がイノシシのように、迷わず真直ぐに正しい方向へ進んでいってほしいものだと考えます。

## 祭礼・祈祷などの案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉  
電話

携帯 ○三―三九一八―七九三〇

メール ○八〇―一九八七―八七二六

daikokujinja@gmail.com



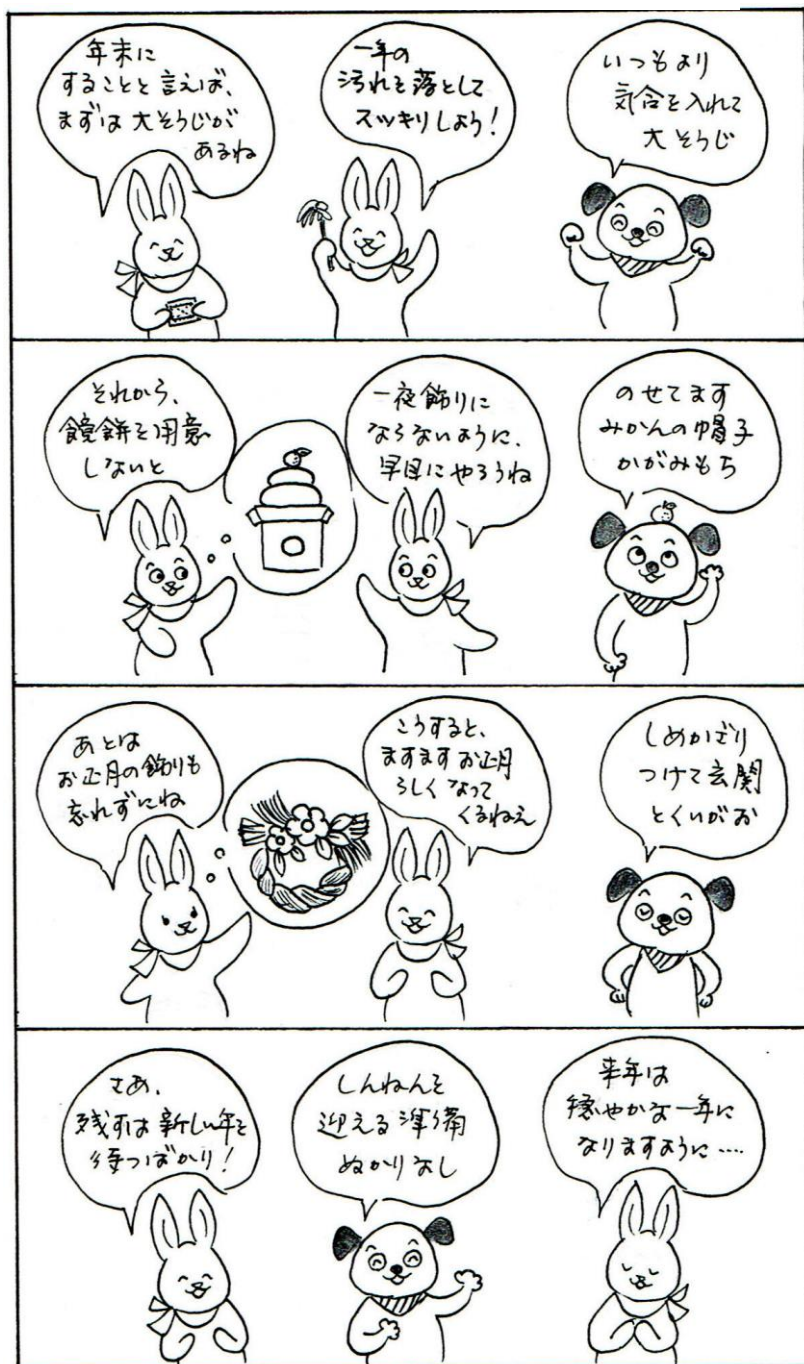


(連載まんが)

# 大吉うさぎ

## ～お正月の準備～

くま こまち 作



### 次号発行予定

「だいいく通信第三十六号」、いかがでしたか。次号「春の号」は、平成三十一年一月二十七日の甲子祭に発行予定です。

「だいいく通信」第三十六号 平成三十年十一月二十八日発行  
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三—二—十一

<http://www.daikokujinja.org>

